

2009 年夏、神奈川の高校生里山へ！

神奈川の高校生たちが、この夏、5×緑の「里山ユニット」の製作体験をし、そこに使われている植物の故郷を訪ねて、馬頭の森(5×緑の里山保全フィールド)を訪れました。

地元の馬頭高校生徒会の皆さんと一緒に馬頭の森の草刈りを手伝ってくれました。

地域の農家に宿泊しての2泊3日の里山訪問。

心温まる交流が生まれたようです。

最終日には、再び横浜に戻って、グループごとに体験報告会をしました。

それぞれに里山の植物や環境、そして人に思いをいたす夏になりました。

このプログラムは、三井住友銀行助成による慶応大学との共同研究の一貫として行われました。

ご協力いただいた日本大学生物資源科学部及び那珂川町役場、教育委員会に深謝いたします。

* 主なプログラムの解説レポートにつづく

主なプログラム内容は次の通りです。



参加する3高校(金沢総合、川崎大師、横浜清陵)のメンバーが、横浜の金沢総合高校に集まって、5×緑の「里山ユニット」の製作を体験。

チーム5×緑の矢澤さんに指導してもらい、グループに分かれて「里山ユニット」づくりに取り組みました。

ユニットには、今回訪問する馬頭の森(栃木県那珂川町)の植物を使ってもらいました。

既に何度か「里山ユニット」づくりを体験している慶応大、日大の大学生たちがリードしてくれるので細かい指導もバッチリ!です。

高校生たちは、ユニットづくりを通して都市の緑化について学びました。同時に馬頭の植物に触れることで里山の環境についても関心をもってくれたようです。



いよいよ、那珂川町を訪問。

集合場所では、町役場の皆さんや馬頭高校の高校生たちが出迎えてくれました。

おにぎりを食べた後、いざ里山へ！

5×緑里山ネットワークの佐藤昭二さんから、草刈りの指南を受けた後、5×緑の管理委託フィールドで草刈り作業を行いました。

草むらには、山椒の木がたくさん生えていて、刈ると独特の芳香があたりに漂います。「ホレ、ウナギ食べる時にかけるだろ！？」と先生に言われてナツク。土の中に眠る虫の幼虫をみつけてサワギがおきたり、童心にかえってカエルを追いかけたり。草刈り用の大鎌の使い心地にハマったという生徒も。

佐藤さんから、山仕事のお話などを聞いた後、この日は農家民泊でお世話になる皆さんと対面して各家庭へー。

こうして高校生たちの夏の里山体験ははじまりました。





7月29日、30日のプログラムは、こんな内容でした。

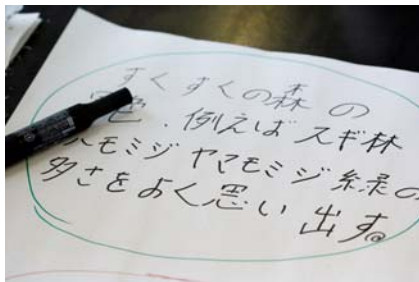
日付	場所	内容	時間	説明	
7月29日	●那珂川町の「川の幸」を知って食べようプログラム				
	山村開発センター	集合	9:00	・スタッフから工程の説明	
		主旨説明	9:00~9:15	・まちバスに乗って出発。	
		バス移動(20分)			
	馬頭高校水産科	高校見学	9:35~10:25	・佐々木先生の指導のもと、那珂川町の水産業、魚種について説明。	
		地場産内水面魚についての学習。		・水産科高校生から那珂川町の魅力や水産科で学ぶ動機等を話してもらう。	
		バス移動(20分)			
	高瀬やな	やなの見学	10:45~11:25	・佐々木先生より、やなの構造や漁の特徴を説明してもらう。	
				・できれば、実際にかかった川魚のつかみどり。	
		移動(20分)			
山村開発センター	昼食づくり	11:45~12:45	・佐々木先生の指導のもと、あゆご飯など那珂川独特の川魚料理づくり		
	昼食、昼休み	12:45~13:30	・近くの川を見るのもいいかと。		
7月29日	●那珂川町の「森」の持つ魅力を発掘するプログラム				
	山村開発センター	作業説明	13:30~13:40	・益子さん(農振課)よりすくすくの森の概説と現状説明。	
		徒歩で森へ(10分程度)		・長島(日大)による作業説明、グループ分け	
	すくすくの森	魅力(イイモノ)探し	13:50~16:00	・グループで、歩きながらすくすくの森のイイモノ探しをする。	
				・発見次第、その場で地図に書き込み、デジタルカメラで撮影。	
	山村開発センター	まとめ、発表	16:00~16:30	・持ち歩いた地図(A4)をもとに、A1地図にまとめる。写真などを写し出すようであれば、別途対応。	
				・若者からみたすくすくの森のイイモノ、イイトコロをまとめる。	
				・益子さんから講評、終了。	
		終業	17:00~	・ホームステイ先方と解散。	
	7月30日	●那珂川町の「山の幸」を知り、食べるプログラム			
和見小学校 教室		集合	9:00		
		主旨説明	9:00~9:20	・スタッフから主旨説明	
		那珂川町における「猟」について説明	9:00~10:00	・小高さん(猟友会)より、猟という生活文化の説明など。	
和見小学校裏 解体施設		イノシシ解体施設の見学	10:05~10:40	・小高さんと役場の方からの説明	
和見小学校 教室		イノシシ肉を使った地域資源活用策について説明	10:40~11:20	・小高さんまたは役場の方からの説明	
		昼食づくり	11:20~11:50	・イノシシ肉加工品の調理、その他サラダ等をみんなで用意。	
		昼食、昼休み	11:50~12:45		
7月30日		●那珂川町の魅力、思い出、しっかりと壁新聞にまとめて頭と心に残していこうプログラム			
		和見小学校 教室	主旨説明	12:45~12:55	・壁新聞づくりの説明、グループ分け
	壁新聞づくり		13:55~14:00	・那珂川町の魅力や、印象に残ったことなど、スタッフから伝えられたテーマに添って壁新聞を製作する。	
	那珂川町での閉会式		14:00~14:15	-	
		バスに乗り、神奈川へ帰還。	14:00~17:00	・みちの駅に寄る?・途中トイレ休憩	
	神奈川県 金沢総合高校	解散	17:00~		

里山から帰った高校生たちが再び横浜の金沢総合高校に集合し、里山体験の報告会を行いました。

大学生の“先生”たちは、里山を起点にした環境問題などについて、高校生に授業を行ってくれました。この後、大学生もグループディスカッションに参加し、この夏、里山で学んだこと、感じたことをまとめてグループごとに発表しました。

*「高校生たちのあんな言葉こんな言葉」参照

最後に高校生たちから、今回“先生役”で頑張った大学生チームへ「感謝状」が贈られました。



● 高校生たちのこんな言葉あんな言葉

- ・「里山ユニット」をつくったときは、ガーデニングをしているみたいな感じだったけど、栃木へ行った今はこれ(自分たちのつくったユニット)が森の一部だと思えるようになりました。
- ・5×緑の「里山ユニット」はどこから来たの？のどかで空の広いところから。
- ・里山へ行って「里山ユニット」に使った植物があるとうれしかった。知ってる植物の名前が増えました。
- ・この子(自分たちのつくったユニット)を見ると、植物をみつけた場所を思い出します。つくったときにはわからなかったけれど、さっき見たらツリガネニンジンが伸びていて驚いた。
- ・「里山ユニット」に使ったコナラやイロハモミジがあんなに大きいなんて！
- ・ホームステイしたところにあったクズの上に外来種が侵入していた。これまでいた在来種が生息できなくなるんじゃないかと思った。
- ・5×緑を見ると栃木を思い出します。
田んぼや小川や「すすくの森」。それに人。
栃木の高校生たちや佐藤さんのことやおみやげをもらった農家の人みんなのことを思い出します。
- ・コイツ(自分たちのつくった「里山ユニット」)の故郷に行ってきた。
馬頭で育った小さな命。こんな小さな塊だけど、ガンバレば馬頭のに負けないくらい大きくなる。
そして林業の人がいないとコイツは存在しなかったとわかりました。
- ・お寺の池でヤマカガシを見た。大きなクモに驚いた。神奈川と違って、那珂川の生き物は大きい。
- ・草刈りのとき使った大鎌の魅力を知りました。
重さが丁度よくて、草を刈った時の感触がすごくイイです！
- ・小さなウルトラマン。短かった5日間だけど結構楽しかったゾ。